



### 『針をつくる』

出雲のたたらで作られた和鉄はどこへ運ばれどんな商品になっていったのでしょうか？針の原料となる鉄は、伯耆・出雲の鉄である。「みすや針」（縫針）として全国的に知られている。こんな記事を見つけました。

インターネットで「みすや針」を調べると現在、京都三条に商店があり、古い時代の針づくりの工程を描いた絵が出ていました。了解を得てここに紹介させていただきます。小さな針にもその用途に最適の工夫がなされているのに驚きました。



針は小さな刃物です。刀と同じように鉄を鍛えて作ります。

『みすや針』の一番の特徴は、縫うときに抵抗がないことです。

- 1 針先 針の先に肉眼では見えない程度に角度をつけています。これは、鋭くとがらせすぎて繊維を切断しないよう、むしろ繊維の間をくぐり抜けるようにという配慮のためです。
- 2 表面 研磨の工程で細かな縦筋をつけております。これは、針が繊維を通るときの摩擦をなるべく少なくし、布通りをよくするのです。
- 3 針穴 丸穴です。最大限に大きな穴があき糸通しが容易です。穴の内側もやすりで磨いておりますので、糸が引っかからず、糸切れしにくく抵抗が少なくなります。また、最も抵抗を少なくしている理由として、針穴に糸を通したときに針の太さと同じになるようにしています。
- 4 強度 強く粘りのある針にするため独自の熱処理を施し、針の先部分は硬め、針穴周辺は柔らかめ、胴に当たる部分には弾力を持たせるようにしております。このため、『みすや針』には弾力性があり、「曲げたときに、一瞬曲がって折れる」と言った最もよい針の条件を満たしております。
- 5 仕立て 針を手の上のせ、針先、針穴、胴の傷、曲がり、硬度の検査等1本1本調べ不良品を取り除き全てが満足に使用できる針であることを確認しております。
- 6 その他 布通りに一番適した針にするため、メッキ加工はしておりません。以上のように、小さな針1本にも、たくさんの工夫をしているのです。

#### 『みすや針』の由来

現在の場所にお店を構えた当時、『池ノ端針』の家号で商いをしておりました。1651年より宮中の御用針司となり、『みすや』の家号は1655年に、後西院天皇（後西天皇1637～1685）より賜りました。御所で針を造っておりました私どもの先代が、『清め』の意味と、その技が秘術であったことから、御簾（みす）の中で作業しておりました。この様子を天皇様をご覧になったためと思われます。

<http://www.misuyabari.jp/>

#### 参考資料

鐵の道を往く 鉄の道文化圏推進協議会編  
山陰中央新報社 安本恭二（日本海事史学会 会員）

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/>  
[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！